

口腔衛生学 2018 正誤表

頁	行・図表番号	誤	正																										
129	右段 20 行目	salivari <u>u</u> s streptococci	salivari <u>s</u> streptococci																										
130	表 4-5-3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ビルレンス因子</th> <th>作用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>線毛</td> <td>上皮への付着</td> </tr> <tr> <td>莢膜</td> <td>貪食の阻止</td> </tr> <tr> <td>LPS (内毒素)</td> <td>骨吸収</td> </tr> <tr> <td>組織破壊性酵素</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コラゲナーゼ、ヒアルロニダーゼ</td> <td>組織破壊</td> </tr> <tr> <td>細胞障害物質</td> <td></td> </tr> <tr> <td>インドール、アンモニア、硫化水素</td> <td>細胞障害</td> </tr> </tbody> </table>	ビルレンス因子	作用	線毛	上皮への付着	莢膜	貪食の阻止	LPS (内毒素)	骨吸収	組織破壊性酵素		コラゲナーゼ、ヒアルロニダーゼ	組織破壊	細胞障害物質		インドール、アンモニア、硫化水素	細胞障害	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ビルレンス因子</th> <th>作用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>線毛</td> <td>上皮への付着</td> </tr> <tr> <td>莢膜</td> <td>貪食の阻止</td> </tr> <tr> <td>LPS (内毒素)</td> <td>骨吸収</td> </tr> <tr> <td>組織破壊性酵素 コラゲナーゼ、ヒアルロニダーゼ、ジンジバイン 細胞障害物質 インドール、アンモニア、硫化水素</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	ビルレンス因子	作用	線毛	上皮への付着	莢膜	貪食の阻止	LPS (内毒素)	骨吸収	組織破壊性酵素 コラゲナーゼ、ヒアルロニダーゼ、ジンジバイン 細胞障害物質 インドール、アンモニア、硫化水素	
	ビルレンス因子	作用																											
線毛	上皮への付着																												
莢膜	貪食の阻止																												
LPS (内毒素)	骨吸収																												
組織破壊性酵素																													
コラゲナーゼ、ヒアルロニダーゼ	組織破壊																												
細胞障害物質																													
インドール、アンモニア、硫化水素	細胞障害																												
ビルレンス因子	作用																												
線毛	上皮への付着																												
莢膜	貪食の阻止																												
LPS (内毒素)	骨吸収																												
組織破壊性酵素 コラゲナーゼ、ヒアルロニダーゼ、ジンジバイン 細胞障害物質 インドール、アンモニア、硫化水素																													
	右段 9 行目～	(新規追加)	<i>T.denticola</i> の病原性に関しては、運動性以外にも、産生する酵素デンティリジンによる組織破壊が問題となる。																										
134	コラム欄 8 行目	2) 食物繊維	2) 食物繊維 (人の消化酵素によって消化されない食物に含まれる難消化成分の総称)																										
	コラム欄 10 行目	●可溶性食物繊維 (セルロース)	●不溶性食物繊維 (セルロース)																										
262	左段 19 行目～	日本では 2017 年に 95% を超えた。	日本では 2016 年には 91% となっている。																										
416	図 11-1-6	<p>図 11-1-6 : 年齢 3 区分別の諸指数の年次推移 (人口動態統計 2014 より今井敏夫作図)</p>	<p>図 11-1-6 : 年齢 3 区分別の諸指数の年次推移 (日本の将来推計人口、平成 29 年推計より作図)</p>																										